**２０２３年７月30日(土)　高原美術館会場**

 筑紫磐井

 五の郭跡一面の草いきれ 石山美和子

〇 夏雲を所定の位置に大浅間 山田真砂年

 お洒落してナイフフォークやメロン食む 浅野幸枝

 すつぽりと黒斑山をかくし大夏木 田中温子

 ご城下に特売とある扇風機 前田恵美

 神田愛子

 谷底に静かな空気葛の花 山田真砂年

 山頂の石垣覆ふ夏の草 田中温子

 結局は言葉平凡瓜の花 中村哲乎

 ご城下に特売とある扇風機 前田恵美

〇 夏草のしたたかなりし踏み応へ 山田真砂年

 大根原志津子

 とんぼうの羽根鋭角に止めて夏 野中　威

 嶺風や秋蝶低く翅たたむ 大矢知順子

 吹き上がる風に黄揚羽もつれをり 津田祥子

 鳥の鳴く四阿に夏惜しみたる 中村みき子

〇 瓜食めば日向の匂ひ母の匂ひ 柳沢晶子

 野中　威

 「ぼくんちあそこ」葉桜越しに指す眼下

 葛の花浅間に雲の輝けり 山田真砂年

 ノンちやんが顔を出しさう夏の雲 大矢知順子

〇 出穂の兆や虚子の散歩道 柳沢木菟

 段取りに梃摺つてゐる熊ん蜂 大根原志津子

 浅野幸枝

 蝉の穴指一と節の深さかな 石山美和子

 涼新た朝茶一口啜りたる 大根原志津子

 なで肩の山なで形の入道雲 野中　威

〇 甲虫胸を起こして飛びにけり 前田恵美

 底の石透けて藻の花二つ三つ 御厨早苗

 前田恵美

 瓜に味噌大盛飯に元気なり 中村みき子

〇 五の郭跡一面の草いきれ 石山美和子

 蟬しぐれ高楼あれば昇りもし 柳沢晶子

 城跡の石垣覆ふ葛に花 御厨早苗

 なで肩の山なで形の入道雲 野中　威

 中村みき子

 墓洗ふ風に帽子の転がりぬ 大根原志津子

 夏の朝からす同士の語らふか 野中　威

 見はるかす浅間山黒斑山や雲の峰 石山美和子

〇 吹き上がる風に黄揚羽もつれをり 津田祥子

 朝涼や水音ひびく諸小諸 柳沢晶子

 中村哲乎

 今日生まれたる夏蝶の翅厚き 田中温子

 蝉の穴指一節の深さかな 石山美和子

 満席の蕎麦屋の庭や蟬の声 大根原志津子

〇 両膝を着いて清水を首冷す 柳沢木菟

 ノンちやんが顔を出しさう夏の雲 大矢知順子

 大矢知順子

 五の郭跡一面の草いきれ 石山美和子

 夏雲を所定の位置に大浅間 山田真砂年

 からびたる道の左右に青田かな 前田恵美

 四阿に吹き上がりくる青田風 石山美和子

〇 夏草や富士見城跡狼煙台 神田愛子

 柳沢木菟

 毎日が楽し胡瓜の丸かじり 中村みき子

 山の道桔梗きぱり咲いてをり 御厨早苗

 手秤で選びし瓜や三つ買ふ 山田真砂年

 夏雲を背に昂然と浅間山 神田愛子

〇 からびたる道の左右に青田かな 前田恵美

 柳沢晶子

 出穂の兆や虚子の散歩道 柳沢木菟

 夏草や富士見城跡狼煙台 神田愛子

〇 山風に立ちあがり咲く葛の花 津田祥子

 底の石透けて藻の花二つ三つ 御厨早苗

 万緑や堀切深き山の城 神田愛子

 御厨早苗

〇 ご城下に特売とある扇風機 前田恵美

 蝉の穴暗く乾きて何もなく 津田祥子

 出穂の兆や虚子の散歩道 柳沢木菟

 朝涼や水音ひびく諸小諸 柳沢晶子

 切株を囲む夏草夏の虫 柳沢晶子

 田中温子

 涼しさや千曲川より吹き上がる 浅野幸枝

〇 夏草のしたたかなりし踏み応へ 山田真砂年

 万緑や堀切深き山の城 神田愛子

 見はるかす浅間山黒斑山や雲の峰 石山美和子

 吹き上がる風に黄揚羽もつれをり 津田祥子

 津田祥子

 涼新た朝茶一口啜りたる 大根原志津子

 山城より小諸一望日の盛り 神田愛子

 夏草のしたたかなりし踏み応へ 山田真砂年

〇 出穂の兆や虚子の散歩道 柳沢木菟

 朝涼や水音ひびく諸小諸 柳沢晶子

 石山美和子

〇 蝉の穴暗く乾きて何もなく 津田祥子

 吹き上がる風に黄揚羽もつれをり 津田祥子

 墓洗ふ風に帽子の転がりぬ 大根原志津子

 瓜食めば日向の匂ひ母の匂ひ 柳沢晶子

 瓜に味噌大盛飯に元気なり 中村みき子

 山田真砂年

 城跡に石垣低し草いきれ 前田恵美

 山風に立ちあがり咲く葛の花 津田祥子

 蟬しぐれ高楼あれば昇りもし 柳沢晶子

 ご飯炊くとて土地人の清水汲む 浅野幸枝

〇 毎日が楽し胡瓜の丸かじり 中村みき子